

2011年3月18日
特定非営利活動法人 エコロジー・アーキスケープ (EAS)
代表 糸長浩司

「原発屋内退避地域の飯舘村に支援を！」募金のお願い

皆様、ご存じの通り、東北関東大震災による津波での避難の受け入れ地域であり、かつ、福島第一原発での水素爆発等での放射能汚染の伴う、屋内避難地域に指定されている、福島県飯舘村の支援のお願いです。

飯舘村は、南相馬市の西部の農山村で、今回の沿岸地域の津波災害での避難者を引き受ける一方で、福島第一原発から村の南東部が30km 県内に入り、一部が屋内退避地域となっている村です。現在は、小学校や行政関連施設に、900人近い避難者を受け入れています。村人が6100人程度の村で1000人近い避難民の受け入れを相当な負担だと思えます。このような状況下で、村人や行政職員も避難せずに、避難者を受け入れて対応している状況でのジレンマ状態です。

現在は、物資の搬入問題もあり、食料、石油、ガソリン等の不足があがっています。

村外からの避難者の一部は、飯舘村に短期避難し、もっと西の会津等に避難行動をしている人も出てきているようです。このような状況の中でのジレンマを抱えての、災害対応を実施している村です。

役場前の放射線量の値は、15日には、45マイクロシーベルトに達し、その後20マイクロシーベルトで安定してしまっている状況下で、村は、2000人の村民の、栃木県鹿沼市への自主集団移動を決定するという苦渋の選択をしています。

NPO法人EASの代表、糸長は15年以上前から、村づくりを支援してきました。現在の村づくりのテーマは、「までいな村づくり」で、東北弁のまでい（真の手の意味で、じっくり、ゆっくりの意味です）、スローで環境配慮、地産地消的な村づくりを進めています。昨年度は、環境共生のモデルエコハウスの「までいな家」の建設を支援してきました。村役場の横に建設しています。「までいな家」は、村のまでいな暮らし普及センターの役割を果たし、エコセンター的機能を果たし、エコビレッジ・ジャパン・ネットワークのメンバーでもあります。断熱、蓄熱、薪ボイラーで対応しているエコ住宅です。土間もあります。「までいな家」は、震災では無事で、南相馬市等の避難民を受け入れています。

「までいな家」は快適な環境でもあり、病気等で弱い人の受け入れをしています。ただ、避難民の出入りは激しいようです。放射能汚染を心配して、飯舘村に立ち寄り、その後、会津に向かって避難している人もいるらしいです。役場の人達は逃げるわけにも行かず、原発からの避難民を受けて頑張っている飯舘村の役場の人達、村民の責任感に頭が下がる思いです。

以上のような飯舘村の状況に対して、必要物資の提供もありますが、緊急的及び長期的な支援を含めて、皆様からの募金をお願いしたいと思います。

この趣旨に賛同して頂ける方は、下記のEASの口座に振り込みを頂けると幸甚です。

募金は一定金額集まりましたら、飯舘村役場、「飯舘村までいな家」に直接お渡ししたいと思います。

ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

尚、募金を振り込んで頂ける方は、下記のメールに氏名、所属、メールアドレスをお知らせください。

特定非営利活動法人エコロジー・アーキスケープ 事務局 藤島祥枝
eas@bronze.ocn.ne.jp

振込先は

三井住友銀行 三田通支店 普通 8232380
特定非営利活動法人エコロジー・アーキスケープ